

第1課
4月6日



人生のリズム

暗唱
聖句

「何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある」
(コヘレト 3：1、新共同訳)

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」
(伝道の書 3：1、口語訳)

今週の
聖句

創世記 1 章、創世記 8：22、詩編 90：10、ヨブ 1：13～19、
使徒言行録 9：1～22、フィリピ 1：6、ローマ 8：1

安息日
午後
3/30

今週のテーマ

これまでに書かれた最も美しい詩のいくつかは、ソロモン王から生まれました。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、殺すに時があり、いやすに時があり、こわすに時があり、建てるに時があり、泣くに時があり、笑うに時があり、悲しむに時があり、踊るに時があり、石を投げるに時があり、石を集めるに時があり、抱くに時があり、抱くことをやめるに時があり、捜すに時があり、失うに時があり、保つに時があり、捨てるに時があり、裂くに時があり、縫うに時があり、黙るに時があり、語るに時があり、愛するに時があり、憎むに時があり、戦うに時があり、和らぐに時がある」(伝道 3：1～8、口語訳)。

これらの言葉は、人間の存在——私たちの人生のリズム、季節——をよく捉えています。確かに、私たちの人生は段階や変化を経験しますが、それは生まれた瞬間からのことです。変化は良いこともあれば、そうでないこともあります。変化を制御できるときもあれば、できないときもあります。今週の研究で、私たちは人生のリズムや季節について、とりわけそれらが私たちの家族に影響を及ぼすときについて考えましょう。

聖書は、「初め」から始まっています。ですから、「初めに……」（創1:1）という言葉（実際のところ、ヘブライ語では1語）で始まっているのでしょうか。言うまでもなく、その章が特に焦点を合わせているのは、「混沌」（同1:2）の状態から、神御自身が六日目に「極めて良かった」（同1:31）と宣言なさった世界へ、地球が変えられる様子です。要するに、ここでの初めは、私たちの世界の初めです。

問1 創世記1章を読んでください。多くのことが起きていますが、次のように自問してみてください——「わずかながらでも、そこには無作為性や偶然性があるだろうか。すべては、極めて規則正しく、適切な時と場所においてなされているだろうか」。あなたの答えは、神の御品性について何を物語っていますか。

エレン・G・ホワイトは、「秩序は天の第一の法則である」（『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1908年7月8日号）と書いています。一見したところ、地球上でもそうです。罪は、ある程度まで自然界を破壊しましたが、秩序、リズム、規則性は、今もなお存在しています。

問2 創世記8:22を読んでください。ここでも、秩序がどのように見られますか。

墮罪以後でさえ、季節は（通常）規則正しく巡っています。それゆえ、（例えば、太陽や月など）「昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるし」（創1:14）となるべき「空に光る物」（同）とともに、季節もあります。季節は、神が創造された世界の自然のリズムの一部なのです。確かに、現在の私たちは片鱗をうかがうことしかできませんが、イザヤ66:23などの聖句は、新しい天と地にもリズムの感覚が存在するであろうことを示唆しています。

◆ 極めて規則的な形で、安息日があなたの生活に、とりわけ家庭生活に、どのような影響を与えているか、考えてみてください。単なる安息日の利点ではなく、安息日が定期的にやって来るといふ事実ゆえの明白な利点には、どのようなことがありますか。

科学者たちは、概日リズムと呼ばれるものについて語ります。私たちの体の機能を制御する生物学的リズム（「体内時計」とも呼ばれるもの）があるという考えです。言い換えれば、私たちの体の中にさえ、ある程度の規則性が存在するということです。従って、リズムというものは、私たちの周囲の至る所に、そして私たちの中にさえ、ある程度存在しています。

問3 次の聖句の中で言及されている予想可能な人生の季節は、何ですか。それらは、いかに直接的に家庭生活とつながっていますか。コヘレト 3：2、創世記 21：8、士師記 13：24、詩編 71：5、箴言 5：18、創世記 15：15、士師記 8：32、詩編 90：10

人生の二つのブックエンド、つまり生と死の間で、私たちはみな、それぞれ異なるさまざまな季節を経験します。出生後に長く生きられない子どももいれば、成長して大人になり、十分長生きする子どももいます。子どもたちは自分自身のペースで成長し、発達します。ほかの子どもより早く歩いたり、話したりし始める子どももいます。学校に通い、成長して専門職に就く人もいれば、ほかの形の仕事に時間を費やす人もいます。家族を持つ人もいれば、結婚せず、子どもを持たない人もいるかもしれません。

地球上には何十億もの人間がいます。私たちには多くの共通点がありますが（使徒 17：26 参照）、人はだれもが個人なので、私たちの人生にはそれぞれ違いが存在します。

ある意味で、これらの違いは重要でもあるのです。なぜなら、その違いが私たち1人ひとりを独自のものとするからです。つまり、人はだれもが、ほかの人が持っていない何か分かち合えるものを持っているということです。要するに、私たちはこの違いによって、他者にとって祝福となれるのです——「力は若者の栄光。白髪は老人の尊厳」（箴言 20：29）。私たちが人生のどの段階にしようと、またどのような違いを持っていようと、私たちはみな、主に対してのみならず、互いに対してささげる（提供す）べき何かを持っているのです。

◆ 現在のあなたの生活環境がどうであれ、あなたはほかの人にとって祝福となるために、何ができますか。そのような祝福となるために、とりわけあなたの家族のだれかにとって祝福となるために、意識的な努力をしてみませんか。

問4 ヨブ記1:13～19、2:7～9を読んでください。ヨブにどのようなことが起きましたか。彼の経験は、ある時期に、何らかの形で、だれにでも起きることをいかに反映していますか。

古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスは、「変化以外に永続的なものはない」と言い切りました。すべてが順調に進んでいるように思えるのと同じくらい、予期せぬことは起きます。それは、仕事や手足を失うことかもしれませんし、私たちが寝たきりにさせたり、早死にさせたりする病気、自宅の焼失、自動車事故、ペットを散歩させているときの転倒かもしれません。

言うまでもなく、すべての変化が否定的なものになるとは限りません。仕事上の昇進は、たぶんより良い経済状態をもたらすでしょう。あるいは、あなたの伴侶になる人との出会いは、多くの人が歓迎する変化でしょう。

どちらにしても、私たちは、日常のことでさえ、リズムに従って進んでいるときに一瞬にして、しかも不意に、すべて中断されてしまうことがあります。

ヨブは、彼の人生の新しい季節を明らかに予想していませんでした。聖書は彼を、「無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた」(ヨブ1:1)と評しています。私たちはまた、彼が結婚しており、7人の息子と3人の娘を持っており、とても裕福であったことを知っています(同1:2、3)。ヨブ記の真ん中に至るまでに、彼は少なくとも六つの大切なもの——財産、労働力、子どもたち、健康、妻の支え、友人たちの励まし——を失います。ヨブの世界はすっかり逆転し、家庭生活は破壊されました。

ヨブに起こったことは極めて極端なことでしたが、私たちの中に、予期せぬことを非常に否定的な形で経験したことのない人がいるのでしょうか。人生は順調に進んで行くこともあります。突然、前触れもなく、すべてがすっかり変わり、私たちの人生(や家族の人生)が二度と同じでなくなる可能性もあります。

これは今に始まったことではありません。たぶん、アベルは殺されるとは思っていなかったでしょうし、ヨセフはエジプトで奴隷として売られるとはまったく予想していませんでした。いずれの物語においても、家族が裏切り者であり、家庭内で起こった出来事によって大きな衝撃を受けました。聖書は、予期せぬことによって大きく変えられた人や家族の実例であふれています。

◆ あなたの人生のリズムを不意に遮った試練の中で、信仰はあなたをどのように助けましたか。

実のところ、人間とは往々にして習慣の生き物です。確かに、私たちは自分なりのやり方ができあがると、しかも年を取れば取るほど、そのやり方を変えることが難しくなります。

確かに、私たちは容易には変わりません。長年にわたって、どれほど多くの主婦が、「夫を変えようとしたのだけれど……」と不平をこぼしてきたことでしょう。しかし、神は私たちを変えることに、私たちの性格というよりもむしろ品性を変えることに、従事しておられます。それが、救済計画とは何かということの大半です。つまり、神が私たちを、神にある新しい人にしてくださることです。

問5 どのような大きな変化がタルソスのサウロに起きましたか。それはどのようにして起きたのですか。使徒8：1、3、9：1～22、ガラ1：15～17

「サウロは聖霊の罪を認めさせる力に全く屈服した時、自分の人生の過ちを知り、神の律法の広範囲に及ぶ要求を認めた。自分の良い働きによって義とされると確信していた高慢なパリサイ人であった彼は、いま謙遜に幼な子のように単純な気持ちで神のみ前にぬかずき、自己の無価値さを告白し、十字架にかけられ、よみがえられた救い主の功績を、自分のために懇願した。サウロはみ父やみ子との完全な一致と霊的な交わりに入りたいと思い、自分がゆるされて、受け入れられるようにと切に願って……熱心な祈りをささげた。

このパリサイ人の後悔の祈りはむだにはならなかった。彼の心に奥深くあった思想と感情は、神の恵みによって変えられた。彼のより高貴な才能は神の永遠の目的に調和していった。キリストとその義は、サウロにとって全世界よりも価値のあるものとなった」（『希望への光』1401ページ、『患難から栄光へ』上巻124、125ページ）。

たとえ私たちの回心の物語が、サウロの物語ほど劇的でないとしても、私たちは自分の物語を持っているはずです。それは、私たちを変えるために、つまりなるべき人間に私たちを変えるために、神が私たちの人生の中でどう働いてくださったのかという体験です。確かにその過程は長く、時として私たちは、いつかは変わるのだろうか、と思いやすいものです。そのようなとき、次の二つの聖句は、瞑想し、自分自身のための約束として求めるうえで、とても重要です。

問6 フィリピ1：6とローマ8：1を読んでください。これらの聖句の中には、どんなすばらしい二つの約束がありますか。それらの約束は、クリスチャンの経験の中でいかにかみ合っていますか。

聖書は関係についての本です。神は、他者との関係の中に私たちを創造されました。確かに、完全に孤立して生きる人はほとんどいません。私たちは、他者がいなければ生まれることすらできません。生まれたあと、少なくとも理屈上では、自力で生きられる年齢になるまで、世話をしてくれるだれかが必要です。たとえ孤立して生きることが可能だとしても、だれがそうしたいと願うでしょうか。たいていの人は、仲間やほかの人間との交わりを必要とし、切望します。犬のようなペットは、すばらしい友人になりえますが、結局のところ、最も深く、意義深く、人生を変えるような交流は、他の人からもたらされます。それゆえ、家族や家族関係が私たちの存在にとって極めて重要であることは、驚くに当たりません。

たいていの人は、四六時中、他者と交わるので、その交流が私たちの人生の変化やリズムにしばしば影響を与えることがあります。しかし、それは双方向においてです。私たちとの交流の中で、他者は私たちの人生に影響し、その一方で、他者との交流の中で、私たちは彼らの人生に影響を及ぼしうのです。そして、私たちがそれを自覚しようといまいと（多くの場合、自覚していませんが）、それらの交流は、いずれの方向であれ、良いものにも悪いものにもなります。ですから、他者に対する私たちの避けがたい影響がいつも良いものであるよう、常に私たちが先を見越して行動することは、なんと重要でしょう。とりわけ、私たちの最も身近にいる人たち（通常、私たちの家族）に対して、そう言えます。

問7 次の聖句を読んでください。他者との交流においてどうするようにと、述べていますか。ロマ 15：7、エフェ 4：2、32、Iテサ 3：12、ヤコ 5：16

いろいろな意味で、この原則は単純です。もし私たちが他者に対して親切に、優しく、思いやりを持って接するなら、極めて良い方向へ彼らの人生を変えることができるほど、私たちは肯定的な影響を与えられるでしょう。イエスが極めて前向きな方法で人々の人生を変えられるように、私たちも他者に対して同じようなことをするというのは、なんとという特権でしょう。繰り返しますが、私たちは次のことを忘れてはなりません——私たちの影響は、たとえかすかであったとしても、良いものにも悪いものにもなるということです。かすかであろうが、なかろうが、私たちの家庭よりもこのような影響が著しい場所は、ほかにありません。

◆ イエスの次の二つの言葉に目を向けてください（ルカ 11：34、マコ 4：24、25）。私たちに何をするように言っていますか。

弟子たちがキリストと時間を過ごすにつれて、彼らの人生に起こった変化を想像してみてください。彼らの多くは、無学で、教養がなく、ユダヤ教の教えや言い伝えに慣れ親しんでいましたが、今や、そのガリラヤ人のラビに挑戦されていたのです。弟子たちは嫉妬（マタ 20：20～24）や対立（ヨハ 3：25）を経験し、信仰の欠如（マコ 9：28、29）、イエスを捨て（マタ 26：56）、裏切る（同 26：69～74）ような状態でした。その一方で、彼らは霊的に成長していました。ですから人々は、ペトロがイエスと一緒にいたことに気づき（同 26：73）、最高法院の議員たちですら、ペトロとヨハネが「無学な普通の人」（使徒 4：13）であることを知って驚き、「イエスと一緒にいた者たちであるということも分かった」（同）のでした。

家族が私たちを見るときに、「イエスと一緒にいた者たちである」とわかるような生き方を私たちがしているなら、私たちはものすごく良い影響を家族に与えることができるでしょう。そのような影響についても考えてみてください。エレン・G・ホワイトの次の言葉から、家庭における影響力について、何を学ぶべきでしょうか。「家庭は、質素であっても、いつも明るいことばが語られ、親切な行為が行われるところ、いつも礼儀正しさと愛が見られるところとなることができる」（『希望への光——クリスチャン生活編』589 ページ、『アドベンチスト・ホーム』6 ページ）。

話し合いのための質問

- ❶ コヘレ 3：1～8 を読んでください。これらの聖句は、何と述べていますか。ここでの原則を、あなたはいかに自分の人生や経験に当てはめることができますか。
- ❷ 安息日学校のクラスで、あなたが体験した「人生を変える体験」について話してください。また、あなたが学んだ教訓や、（当てはまる場合には、）学ぶべきであったのに学べなかった教訓について話してください。あなたが知らなかったその教訓から、あなたは何を学びましたか。さらに、これらの「人生を変える体験」がいかにあなたの家族に影響を及ぼしたかについても話してください。そのような状況の中で、あなたはどんな教訓を学びましたか。
- ❸ もしキリストがあなたの人生の中におられなかったとしたら、現在とは根本的に違うどんな生き方を今頃しているでしょうか。そのことから、私たちを変えるキリストの力について、何を学ぶべきですか。